



# Yonago East Weekly

●創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531  
●例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911  
●会長/尾沢三夫 ●幹事/永見吉平 ●会報/伊藤慎哉

**出席報告**  
会員数78名

**今週のお祝い**  
出席100%祝: 該当者なし

## 会長挨拶

先週、日曜日に会員増強、ロータリー財団合同セミナーが倉吉であり、4人が参加した。  
会員増強のスピーチがあり、2690地区の中で「輝ける米子東RC」ということであった。また、あるスピーチされた方が米子東RCのことを「野球ですね!」とおっしゃっていた。「全国的に野球で知られているんだな」と感じた。  
来週は、いよいよガバナーの公式訪問を迎えるが、いつになく出席委員会は力が入っている。全会員にFAXが入り、出席できない方には、あらかじめメーカーキャップをするように促してある。現在、出欠の連絡のない方は6名のみとのことである。100%出席、いわゆるチャレンジ100の一環であり、必ず出席をお願いしたいと思います。  
さて、作文コンテストの方も順調に進んでいます。次世代委員会の方にはご苦勞をおかけしますがよろしく願いいたします。

## 幹事報告

- 9/14ガバナー公式訪問例会 100%出席例会
- 9/4会員増強・R財団合同セミナー 出席お礼文書 (ガバナー事務所より)
- 例会変更のお知らせ
 

米子南RC	9/12(月) 観月例会	ビジター受付あり
	9/19(月) 休会 敬老の日	ビジター受付 なし
松江南	"	"
松江しんじ湖	9/20(火) 休会 (定款第6条)	ビジター受付あり
松江東	9/22(木) 休会 (定款第6条)	ビジター受付なし
鳥取西	9/23(金) 休会 (法定休日)	ビジター受付なし
米子	"	"

## 《プログラム》 「ロータリーの友」雑誌紹介

雑誌委員会リーダー 小田 浩一 会員



- RI会長メッセージ: 「より若い会員をロータリーに」
- 特集「新世代のための月間」
  - ・人生の変革点となった交換留学
- 新世代、さまざまな活動
  - ・27回目を迎える留学生ホームステイと地元小学校での交流会
- 国境なき支援
- 例会一覧表: イークラブについて
- 言いたい、聞きたい
  - ・Eクラブはロータリーではないのか
  - ・Eクラブの創立に思う
- 女性を活用できない会社に未来はない
- この人、この仕事: 「実業の世界から 福祉の世界へ転身」



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Reach within to embrace humanity

こころの中を見つめよう 博愛をひろめるために

## 「どらやき大使について」

### どらやきで米子のまちを元気にする

代表 野坂 裕一 氏

チラシ「どらやきを食べて！みんなで元気になろう」という杉原会員が出ているものと、「どらやきを食べて！みんなで元気になろう」というケヤキ通りの関係で重田さんが出ている新聞がある。

この新聞は、8月に5～6回、日本海新聞に掲載してもらった。そして、丸京製菓さんで作られたパンフレットに基づいて紹介させていただきます。

丸京製菓さんがつくられたパンフレットの裏に、「4月4日はどらやきの日」、「4月4日はどらやきを食べてみんなで幸せになろう！！」と書かれている。これは、米子市が長野県に記念日申請をして許可されたものである。その下に「どらやき市民基金」というシールがある。この基金は、「どらやきで米子のまちを元気にする会」は、どらやきで鳥取県西部を元気にしようとする有志、市民で設立された会です。この会で立案された「どらやき市民基金」は、この地でがんばっている団体(スポーツ、文化団体)などを支援する基金です。

このどらやきを1個買うと約1円が基金として入ってくる。丸京製菓さんの年間どらやきの製造が1億2000万個である。そして、その中の約3%が米子で売られている。丸京製菓さんだけでなく寿製菓さんとかも含めて基金に協力してもらうことを願います。このことにより、約100万円が年間入ってくることになる。

このお金は、米子の中で、文化、芸術を伝承して、一生懸命、米子のためにがんばっている団体、例えば、「子供歌舞伎」、「子供太鼓」などに基金の中から援助しようと考えているものである。どの団体を援助するのかを決めるのが杉原会員をはじめとする委員会の方たちになる。

先の新聞に、「大山山ろく米子の水、日本で最高に自慢のおいしい水道水です」と書かれている。これは、「日本一おいしい水道水ですよ」ということである。このように米子を自慢するものには、「水」、「けやき通り」、ホワイトハウスに絵が展示してある画家の濱田さん、革細工の本池さん、カメラマンの植田さん、人形作品の安部さん等一杯あります。こういった宝が米子にいっぱいある中で、若い子供たちに芸術、文化を伝承し、更に広げていってほしい。こういった活動にどらやき市民基金を通して支援していきたいとの思いから、この団体を立ち上げた。米子が、日本一、世界一の情報を発信できるようになればいいなと思っています。この活動をPRする方を「どらやき大使」として、野坂米子市長をはじめとする方たちになっていただいた。

皆さんには、米子の自慢を教えていただきたい。そして、たくさんどらやきを食べていただきたい。お願いいたします。



## 次回プログラム予定

9/21 米子松蔭高校 インターアクトクラブ活動報告